



# 平成29年度「全国学力・学習状況調査」の調査結果について

平成29年12月  
江別市教育委員会

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### 2 調査の対象学年及び調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学年	実施学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	第6学年	18	912
中学校	第3学年	8	989
合計		26	1,901

### 3 調査の内容

(1)教科に関する調査 (国語、算数・数学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主として「知識」に関する問題～国語A、算数・数学A</li> <li>・主として「活用」に関する問題～国語B、算数・数学B</li> </ul>
(2)質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒に対する質問紙調査～学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等</li> <li>・学校に対する質問紙調査～指導方法に関する取組、教育条件の整備の状況等</li> </ul>

### 4 調査方式

悉皆調査(対象は小学校6年生、中学校3年生)

### 5 調査期日

平成29年4月18日(火)

### 6 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

## II 結果の概要

### 1 教科に関する結果の概要

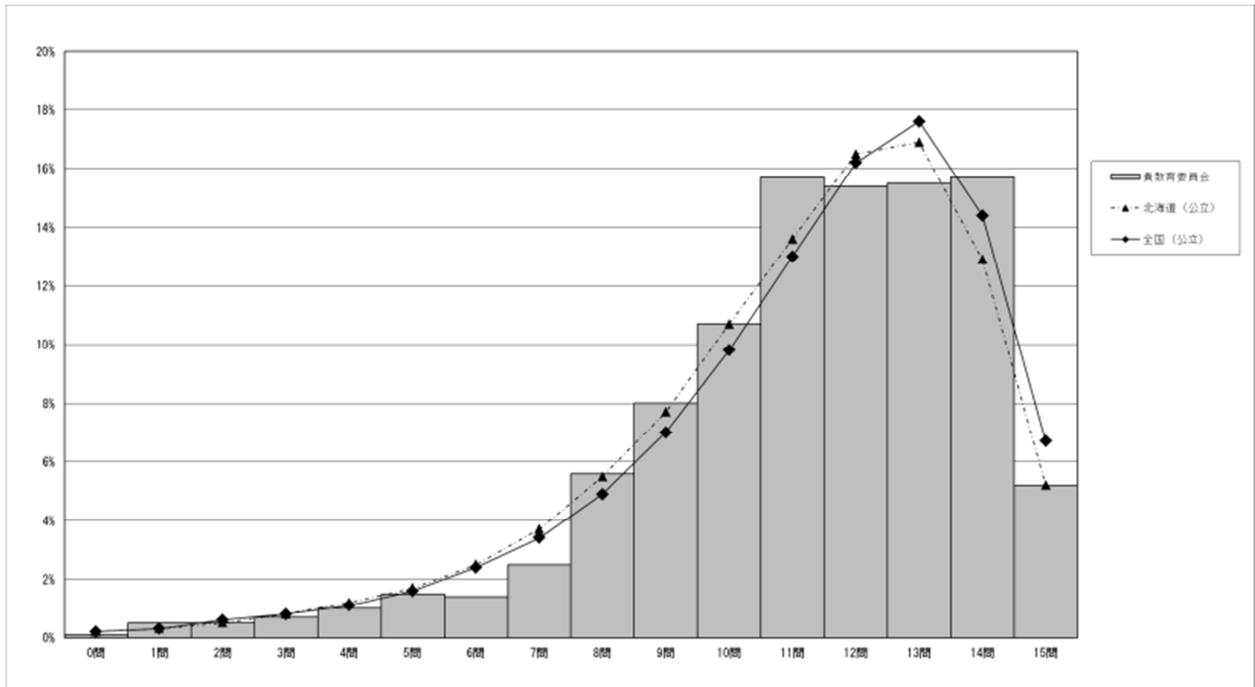
(1) 小学校 平均正答率は、北海道との比較では、国語A・B、算数Aの3教科で北海道を上回り、算数Bは北海道と同様です。また、全国との比較では、国語A、算数Aの2教科で全国を上回り、国語B、算数Bの2教科で全国を下回っています。
(2) 中学校 平均正答率は、北海道との比較では、すべての教科で北海道を上回っています。また、全国との比較でも、すべての教科で全国を上回っています。

### 2 質問紙調査に関する結果の概要

○ 平日に3時間以上テレビやビデオ見る割合は、小学校6年生は全国と同様で、中学校3年生は全国平均を下回っています。平日にテレビゲームを3時間以上する割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。
○ 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」、「礼儀正しいと思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回り、江別市の学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。
○ 算数・数学の授業でパソコンや電子黒板、実物投影機等を活用して授業を行った割合は、全国平均を大きく上回り、ICT(情報通信技術)を活用した授業が積極的に行われています。

### Ⅲ 各教科の結果

#### 1 小学校 「国語A」 <正答数分布グラフ>



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

国語A	平均正答数	平均正答率(%)
江別市	11.2/15	75.0
北海道	11.1/15	74.0
全国	11.2/15	74.8

領域	設問数	平均正答率(%)		
		江別市	北海道	全国
話す・聞く	1	65.8	68.2	69.2
書く	2	58.3	57.6	60.6
読む	3	68.8	68.9	70.2
伝統的な言語文化と国語の特質	11	78.5	77.3	78.0

複数の領域にまたがる設問もあります。

#### <結果>

- 平均正答率は75.0%で、北海道を1.0ポイント、全国を0.2ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が0.5ポイント全国を上回り、「話すこと・聞くこと」が3.4ポイント、「書くこと」が2.3ポイント、「読むこと」が1.4ポイント全国を下回っています。

#### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

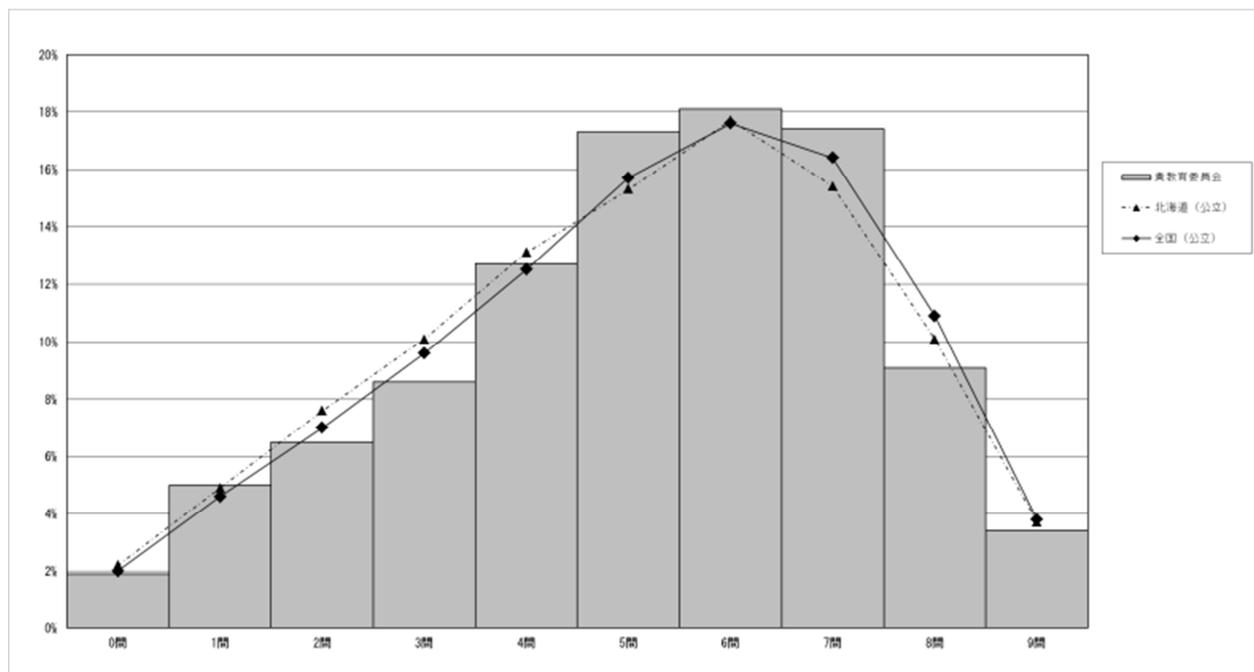
##### ■ 「手紙の構成を理解し、後付けを書く」

手紙の構成や内容を吟味したり、形式を整えたりすることが、相手に対する感謝の思いや敬意を表すことにつながるということを指導することが大切です。

##### ■ 「俳句の情景を捉える」

児童が俳句を繰り返して音読しながら、言葉の美しい響きや俳句のもつリズムに着目して、俳句に表れている情景や作者の思いなどについて感じたことを交流するなど、児童が想像したことを広げたり深めたりして指導することが大切です。

## 2 小学校 「国語B」 <正答数分布グラフ>



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

国語B	平均正答数	平均正答率(%)
江別市	5.2 / 9	57.0
北海道	5.1 / 9	56.0
全国	5.2 / 9	57.5

領域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全国
話す・聞く	3	68.3	65.0	64.9
書く	5	53.1	51.9	53.4
読む	3	45.1	47.3	49.2
伝統的な言語文化と国語の特質	0	—	—	—

複数の領域にまたがる設問もあります。

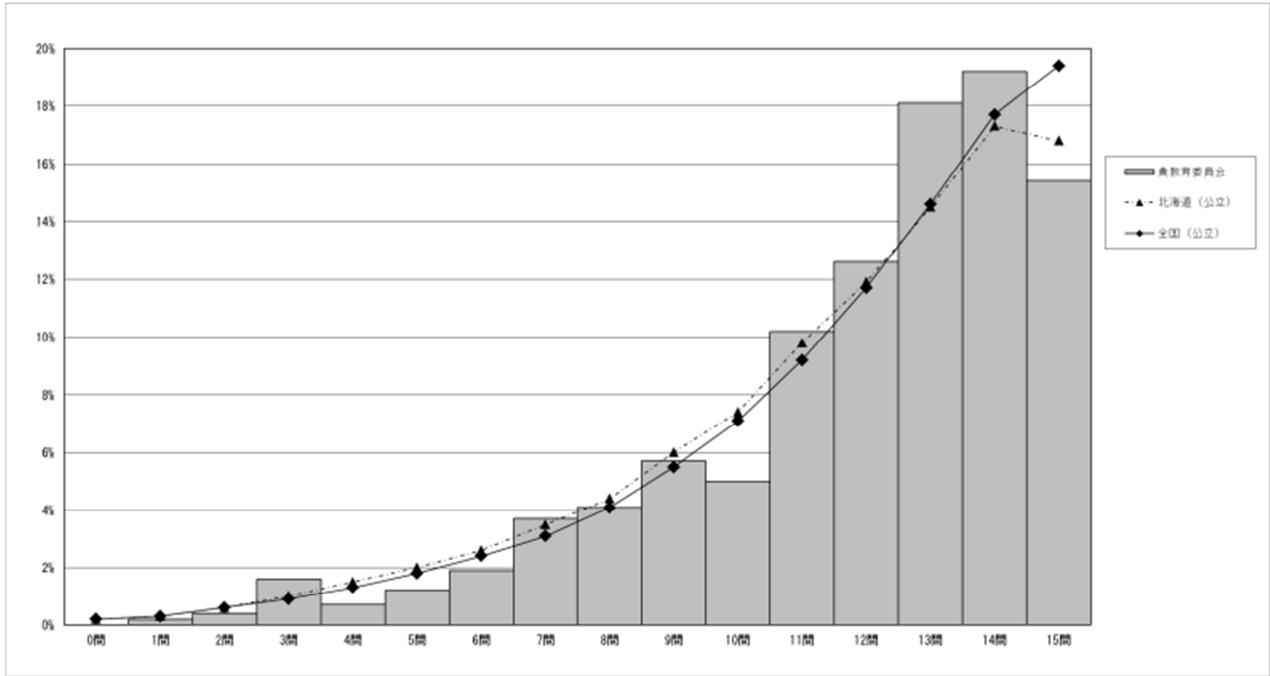
### <結果>

- 平均正答率は57.0%で、北海道を1.0ポイント上回り、全国を0.5ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「話すこと・聞くこと」が全国を3.4ポイント上回り、「書くこと」が0.3ポイント、「読むこと」が4.1ポイント全国を下回っています。

### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる」  
自分の考えがどの叙述に基づいているのかを明らかにしながら交流することで、自分の考えが明確になるということを児童が実感できるように指導することが大切です。
- 「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える」  
叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる際、その叙述を見つけるためには、場面の展開に沿って、登場人物の言動や心情の変化を捉えて読むように指導することが大切です。

### 3 小学校 「算数A」 <正答数分布グラフ>



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

算数A	平均正答数	平均正答率(%)
江別市	11.8 / 15	79.0
北海道	11.6 / 15	77.0
全国	11.8 / 15	78.6

領域	設問数	平均正答率(%)		
		江別市	北海道	全国
数と計算	8	81.3	79.5	80.6
量と測定	2	67.3	67.1	68.8
図形	2	79.9	78.2	81.1
数量関係	5	80.2	77.9	79.6

複数の領域にまたがる設問もあります。

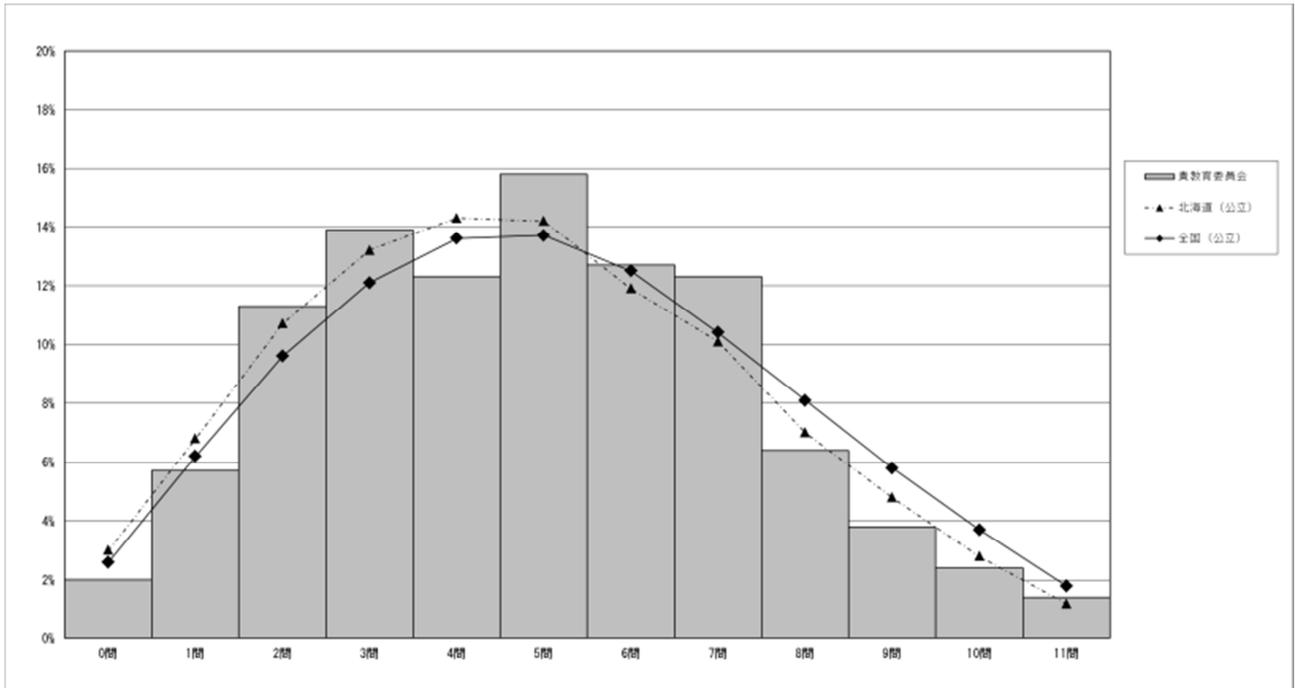
#### <結果>

- 平均正答率は79.0%で、北海道を2.0ポイント、全国を0.4ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「数と計算」が0.7ポイント、「数量関係」が0.6ポイント全国を上回り、「量と測定」が1.5ポイント、「図形」が1.2ポイント全国を下回っています。

#### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成できることを理解している」  
 いろいろな正多角形の構成・分解などの活動を通して、正多角形の性質を見いだしたり、ふり返ったりすることにより、その性質の理解を深める指導が大切です。
- 「高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解している」  
 底辺の長さが高さがそれぞれ等しい平行四辺形と三角形においては、図形の向きや形に依存せずに、三角形の面積は平行四辺形の面積の半分であることを理解できるように指導することが大切です。

#### 4 小学校 「算数B」 <正答数分布グラフ>



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

算数B	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市	4.9/11	44.0
北海道	4.8/11	44.0
全国	5.1/11	45.9

領域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全国
数と計算	5	52.7	51.1	52.8
量と測定	2	40.8	41.3	47.0
図形	1	9.5	10.4	13.2
数量関係	8	37.7	37.3	40.0

複数の領域にまたがる設問もあります。

#### <結果>

- 平均正答率は44.0%で、北海道と同様で、全国を1.9ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「数と計算」が0.1ポイント、「量と測定」が6.2ポイント、「図形」が3.7ポイント、「数量関係」が2.3ポイント全国を下回っています。

#### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

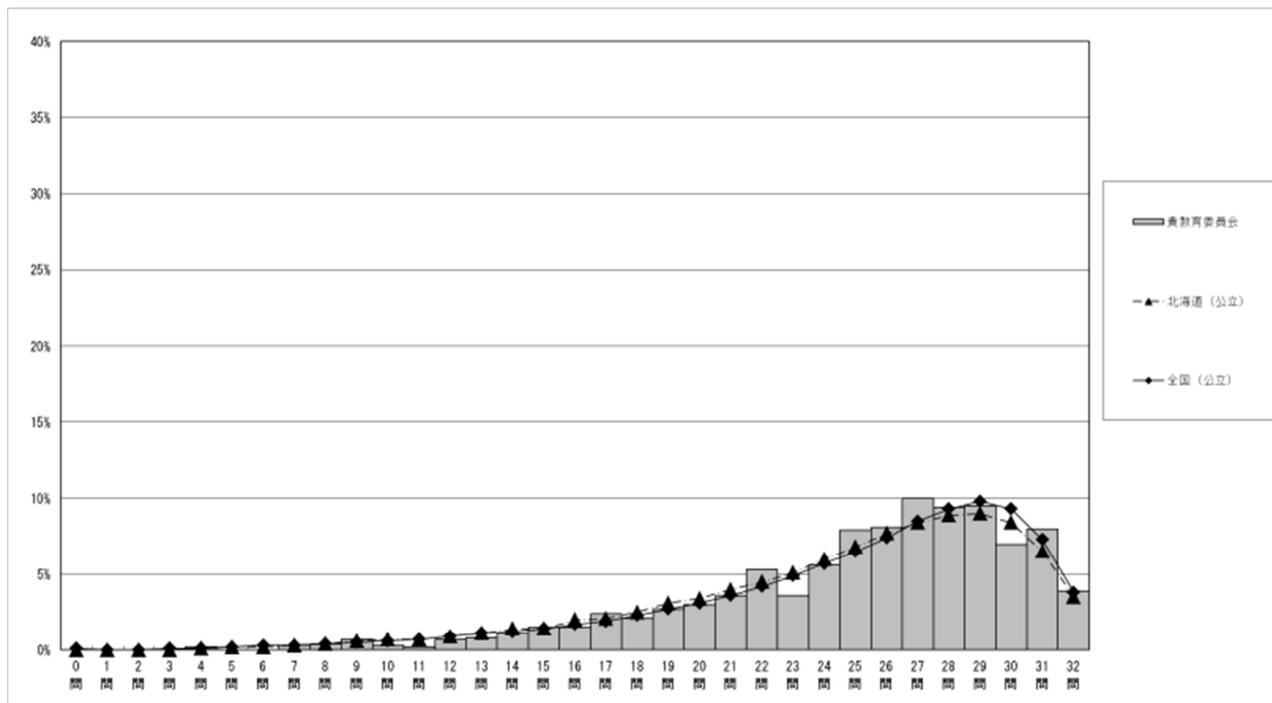
##### ■ 「仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める」

測定値の平均を求める際は、平均がおよそどのくらいになるのかを見積もったり、能率的に処理するために工夫して計算したり、測定値の平均を工夫して求めるよさを実感できるように指導することが大切です。

##### ■ 「身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる」

日常生活の事象を割合を活用して数学的に解釈するために、基準量・比較量・割合の関係を的確にとらえ判断した理由や問題を解決した過程を数学的に表現できるように指導することが大切です。

## 5 中学校 「国語A」 <正答数分布グラフ>



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

国語A	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市	25.0 /32	78.0
北海道	24.5 /32	77.0
全国	24.8 /32	77.4

領域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全国
話す・聞く	4	78.0	75.0	75.4
書く	4	85.2	85.3	85.7
読む	6	74.8	73.1	73.8
伝統的な言語文化と国語の特質	18	77.7	76.3	77.2

複数の領域にまたがる設問もあります。

### <結果>

- 平均正答率は78.0%で、北海道を1.0ポイント、全国を0.6ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「話すこと・聞くこと」が2.6ポイント、「読むこと」が1.0ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が0.5ポイント全国を上回り、「書くこと」が0.5ポイント全国を下回っています。

### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

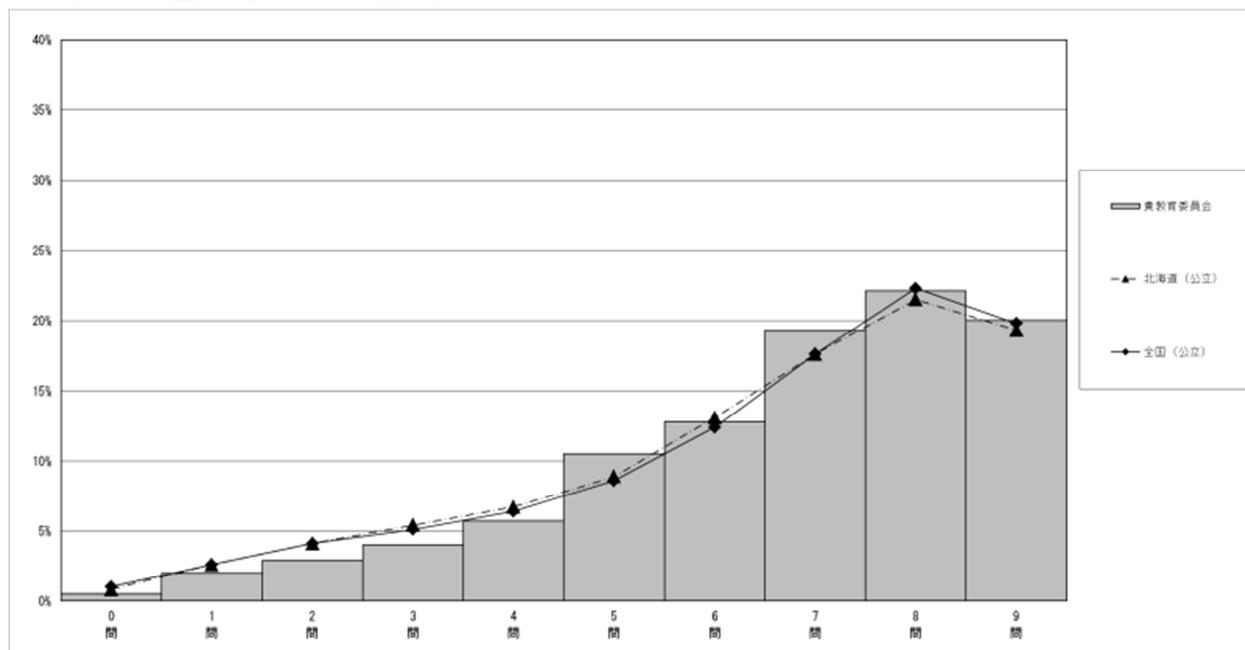
#### ■ 「文脈に即して漢字を正しく書く」

漢字の字体、字形、音訓、意味や用法などを意識させ、文脈に即して漢字を書くように注意して学習するよう指導することが大切です。

#### ■ 「楷書と行書との違いを理解する」

実際に文字を書く中で、行書や筆脈などの学習する際に用いる言葉について理解し、書写の指導では楷書と行書のそれぞれの特徴について理解することができるように指導する必要があります。

## 6 中学校 「国語B」 <正答数分布グラフ>



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

国語B	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市	6.6/9	74.0
北海道	6.5/9	72.0
全国	6.5/9	72.2

領域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全国
話す・聞く	3	73.6	71.9	72.4
書く	4	62.4	60.1	60.8
読む	4	74.9	71.9	72.1
伝統的な言語文化と国語の特質	1	44.4	40.7	41.4

複数の領域にまたがる設問もあります。

### <結果>

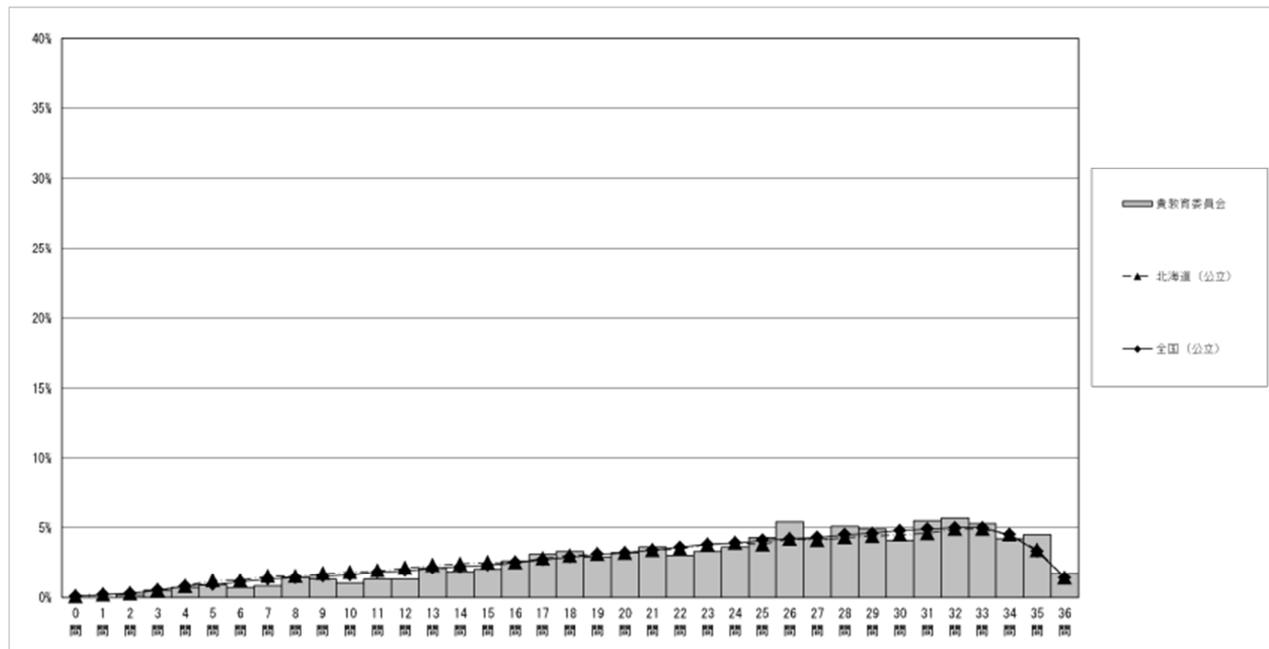
- 平均正答率は74.0%で、北海道を2.0ポイント、全国を1.8ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「話すこと・聞くこと」が1.2ポイント、「書くこと」が1.6ポイント、「読むこと」が2.8ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が3.0ポイント全国を上回っています。

### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

#### ■ 「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」

スピーチや話し合いなどをする際には、目的や必要に応じて情報を選択し、自分の考えを聞き手に分かりやすく伝わるように工夫して話すように指導することが大切です。

7 中学校 「数学A」 <正答数分布グラフ>



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

数学A	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市	24.1/36	67.0
北海道	22.9/36	64.0
全国	23.3/36	64.6

領域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全国
数と式	12	71.6	68.1	70.4
図形	12	69.1	66.4	66.0
関数	8	60.3	56.9	57.4
資料の活用	4	59.6	56.0	57.6

複数の領域にまたがる設問もあります。

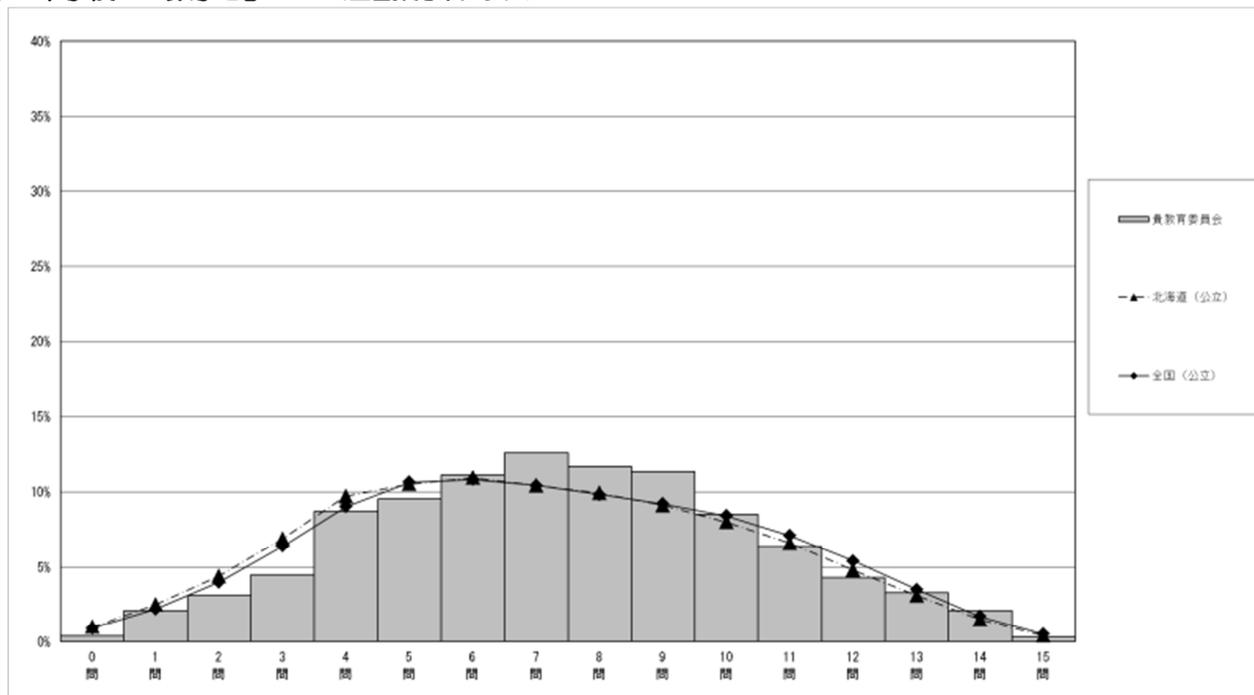
<結果>

- 平均正答率は67.0%で、北海道を3.0ポイント、全国を2.4ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「数と式」が1.2ポイント、「図形」が3.1ポイント、「関数」が2.9ポイント、「資料の活用」が2.0ポイント全国を上回っています。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「見取図に表された立方体の面上の線分の長さの関係を読みとることができる」  
見取図と空間図形を対応させながら、辺の長さや角の大きさの関係などを確認する活動を通して、見取図の特徴を理解し、必要な情報を読み取ることができるように指導することが大切です。
- 「与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読みとることができる」  
事柄や数量の関係を文字式で表したり、その文字式の意味を読み取ったりすることができるように、指導することが大切です。

## 8 中学校 「数学B」 <正答数分布グラフ>



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

数学B	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市	7.4/15	49.0
北海道	7.0/15	47.0
全国	7.2/15	48.1

領域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全国
数と式	3	45.5	44.9	46.3
図形	6	49.5	46.0	47.1
関数	3	53.5	50.8	50.8
資料の活用	3	48.1	46.8	49.1

複数の領域にまたがる設問もあります。

### <結果>

- 平均正答率は49.0%で、北海道を2.0ポイント、全国を0.9ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「図形」が2.4ポイント、「関数」が2.7ポイント全国を上回り、「数と式」が0.8ポイント、「資料の活用」が1.0ポイント全国を下回っています。

### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」  
事柄の意味を事象に即して読み取り、読み取った意味に基づいて、根拠を明確にするように指導することが大切です。
- 「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」  
資料の分布の様子を捉える場面を設定し、資料の傾向を的確に捉え、根拠を明確にして事柄が成り立つ理由を説明する活動を取り入れて指導することが大切です。

## IV 質問紙調査の結果

### 1 「児童・生徒質問紙」

#### (1) 家庭の生活

##### ① 朝食を「毎日食べている」、「どちらかといえば毎日食べている」

- ・小学校6年生 96.4%で、昨年度より0.9ポイント高く、全国平均より1.0ポイント高い。
- ・中学校3年生 92.5%で、昨年度より0.5ポイント低く、全国平均より0.7ポイント低い。

##### ② 「毎日同じくらいの時刻に寝ている」、「どちらかといえば同じくらいの時刻に寝ている」

- ・小学校6年生 81.2%で、昨年度より0.4ポイント低く、全国平均より1.4ポイント高い。
- ・中学校3年生 72.7%で、昨年度より0.3ポイント高く、全国平均より2.9ポイント低い。

小学校6年生の朝食摂取は、改善傾向にあり、就寝時刻についても、全国平均を上回っています。中学校3年生の朝食摂取、就寝時刻については、全国平均を下回っています。子どもの生活リズムの向上のため、学校、家庭、地域等が連携して改善に向けた取組をさらに充実する必要があります。

#### (2) 自己肯定感

##### ① 難しいことでも「失敗を恐れなくて挑戦している」、「どちらかといえば挑戦している」

- ・小学校6年生 69.7%で、昨年度より1.6ポイント低く、全国平均より7.7ポイント低い。
- ・中学校3年生 66.6%で、昨年度より1.6ポイント低く、全国平均より4.4ポイント低い。

##### ② 自分には、よいところが「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」

- ・小学校6年生 76.6%で、昨年度より1.8ポイント高く、全国平均より1.3ポイント低い。
- ・中学校3年生 64.2%で、昨年度より0.1ポイント高く、全国平均より6.5ポイント低い。

##### ③ 将来の夢や目標を「もっている」、「どちらかといえば、もっている」

- ・小学校6年生 85.4%で、昨年度より2.8ポイント高く、全国平均より0.5ポイント低い。
- ・中学校3年生 66.3%で、昨年度より3.3ポイント低く、全国平均より4.2ポイント低い。

##### ④ 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことが「ある」、「どちらかといえばある」

- ・小学校6年生 88.9%で、昨年度より1.1ポイント高く、全国平均より1.1ポイント高い。
- ・中学校3年生 87.0%で、昨年度より1.4ポイント低く、全国平均より1.0ポイント高い。

##### ⑤ 先生は、自分のよいところを「認めてくれている」、「どちらかといえば、認めてくれている」

- ・小学校6年生 87.2%で、昨年度より1.3ポイント高く、全国平均より1.2ポイント高い。
- ・中学校3年生 81.4%で、昨年度より2.0ポイント高く、全国平均より1.0ポイント高い。

難しいことへの挑戦、自己肯定感、将来の目標等については、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を下回っています。学級みんなで協力し何かをやり遂げうれしく思う割合、先生はよいところを認めてくれていると思う割合については、小・中学生ともに全国平均を上回っています。市内の小・中学校では、一人一人のよさや可能性を見つけて伝えたり、集団における所属感や達成感を高める取組を進めていますが、自己肯定感や自己有用感の醸成は継続して取り組む必要があります。

#### (3) テレビの視聴やゲーム

##### ① 平日にテレビやビデオ・DVDを3時間以上見る(テレビゲームは除く)

- ・小学校6年生 32.7%で、昨年度より2.6ポイント高く、全国平均と同様。
- ・中学校3年生 22.4%で、昨年度より3.0ポイント低く、全国平均より2.9ポイント低い。

##### ② 平日にテレビゲームを3時間以上している(コンピュータ、携帯式ゲームも含む)

- ・小学校6年生 21.8%で、昨年度より4.7ポイント高く、全国平均より4.2ポイント高い。
- ・中学校3年生 22.6%で、昨年度より2.5ポイント高く、全国平均より1.2ポイント高い。

平日にテレビやビデオ・DVDを3時間以上見る割合は、小学校6年生は全国平均と同様で、中学校3年生は全国平均を下回っています。平日にテレビゲームを3時間以上している割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに昨年度を上回り、全国平均を上回っています。テレビ等を見たりゲームを行ったりする時間帯や時間についての家庭内でのルール作りなど、家庭と一体となって学習時間の確保や望ましい生活習慣を確立する取組を進める必要があります。

#### (4) 学校の授業以外の勉強

##### ① 平日に、学校の授業以外に1時間以上勉強する(学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

- ・小学校6年生 63.4%で、昨年度より4.5ポイント高く、全国平均より1.0ポイント低い。
- ・中学校3年生 63.8%で、昨年度より2.0ポイント低く、全国平均より5.8ポイント低い。

##### ② 休日に、学校の授業以外に1時間以上勉強する(学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

- ・小学校6年生 60.4%で、昨年度より2.1ポイント高く、全国平均より3.1ポイント高い。
- ・中学校3年生 70.0%で、昨年度より1.8ポイント高く、全国平均より0.6ポイント高い。

##### ③ 家で、自分で「計画を立てて勉強している」、「どちらかといえば、している」

- ・小学校6年生 69.6%で、昨年度より2.7ポイント低く、全国平均より5.1ポイント高い。
- ・中学校3年生 51.9%で、昨年度より4.9ポイント高く、全国平均より0.4ポイント高い。

家庭学習について、平日に学校の授業以外に1時間以上勉強する割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を下回っています。休日に学校の授業以外に1時間以上勉強する割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。家庭学習は学習内容を確実に身に付けるために必要であり、学校からの宿題はもとより各家庭において学習に取り組む時間帯やテレビを見る時間、ゲームをする時間等について望ましい生活習慣を確立し、休日も含め毎日取り組むようにする必要があります。

#### (5) 学校生活

##### ① 学校に行くのは「楽しいと思う」「どちらかといえば、そう思う」

- ・小学校6年生 84.0%で、昨年度より2.0ポイント高く、全国平均より2.3ポイント低い。
- ・中学校3年生 71.0%で、昨年度より3.2ポイント低く、全国平均より9.9ポイント低い。

##### ② 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、「うれしかった」「どちらかといえば、そう思う」

- ・小学校6年生 88.9%で、昨年度より1.1ポイント高く、全国平均より1.1ポイント高い。
- ・中学校3年生 87.0%で、昨年度より1.4ポイント低く、全国平均より1.0ポイント高い。

学校に行くのは楽しいと思う割合は、小・中学生ともに全国平均を下回っています。学級みんなで協力し何かをやり遂げうれしく思う割合は、小・中学生ともに全国平均を上回っています。より分かりやすい授業の実施や行事等で協力してやり遂げる喜びを味わえるようにするほか、受容的、共感的な人間関係の醸成、集団における所属感や成就感、自己有用感を高めていく必要があります。

#### (6) 社会に対する興味・関心

##### ① 地域や社会で起こっている問題や出来事に「関心がある」、「どちらかといえば、関心がある」

- ・小学校6年生 58.8%で、昨年度より11.5ポイント低く、全国平均より5.1ポイント低い。
- ・中学校3年生 55.0%で、昨年度より9.8ポイント低く、全国平均より4.2ポイント低い。

##### ② 新聞を「ほぼ毎日読む」

- ・小学校6年生 7.3%で、昨年度より0.9ポイント低く、全国平均より0.5ポイント低い。
- ・中学校3年生 6.8%で、昨年度より1.6ポイント低く、全国平均より1.5ポイント高い。

社会に対する興味・関心について、小学校6年生、中学校3年生ともに、全国平均を下回っています。新聞をほぼ毎日読むについては、小学校6年生は全国平均を下回っていますが、中学校3年生は全国平均を上回っています。社会の出来事に関心をもたせ、必要な情報を取捨選択する能力を育成する観点からも、新聞を読んだりニュース番組を見たりする習慣を身に付けさせることが大切です。

#### (7) 思いやり

##### ① 人が困っているときに、「進んで助けている」、「どちらかといえば、助けている」

- ・小学校6年生 82.8%で、昨年度より1.1ポイント高く、全国平均より2.5ポイント低い。
- ・中学校3年生 79.1%で、昨年度より2.3ポイント低く、全国平均より5.3ポイント低い。

##### ② 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」

- ・小学校6年生 85.2%で、昨年度より0.3ポイント低く、全国平均より4.0ポイント高い。
- ・中学校3年生 72.5%で、昨年度より2.9ポイント低く、全国平均より0.8ポイント低い。

「困っている人を進んで助ける、どちらかといえば助けている」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに約8割ですが全国平均を下回っています。「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」割合は、小学校6

年生は全国平均を上回り、中学校3年生は全国平均を下回っています。各学校で実施されているいじめ根絶に向けたアンケートや児童生徒主体の集会活動を継続するとともに、学校の教育活動全体で人への思いやりや規範意識をはぐくむ道徳教育を一層充実していく必要があります。

## (8) 読書習慣

### ① 読書は「好きだ」、「どちらかといえば好きだ」

- ・小学校6年生 75.8%で、昨年度より1.3ポイント低く、全国平均より1.5ポイント高い。
- ・中学校3年生 75.7%で、昨年度より1.6ポイント低く、全国平均より5.8ポイント高い。

### ② 学校の授業時間以外に、「平日、1日30分以上読書をする」(教科書、漫画や雑誌を除く)

- ・小学校6年生 34.3%で、昨年度より0.6ポイント低く、全国平均より2.2ポイント低い。
- ・中学校3年生 31.0%で、昨年度より3.0ポイント低く、全国平均より1.8ポイント高い。

読書が好きな割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。各学校では、朝読書の実施やボランティアによる読み聞かせ、市の情報図書館司書の巡回等による図書館の整備など、読書環境の充実が図られています。

## (9) 主体的・対話的で深い学びの視点による学習への取り組み

### ① 授業で学級やグループの中で、課題に対して、自ら考え、自分から「取り組んでいる」、「どちらかといえば、取り組んでいる」

- ・小学校6年生 74.3%で、昨年度より4.2ポイント低く、全国平均より3.6ポイント低い。
- ・中学校3年生 73.6%で、昨年度より0.2ポイント低く、全国平均より1.3ポイント低い。

### ② 授業で自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを「工夫して発表している」、「どちらかといえば、工夫して発表している」

- ・小学校6年生 59.5%で、昨年度より0.6ポイント低く、全国平均より5.4ポイント低い。
- ・中学校3年生 49.9%で、昨年度より1.9ポイント低く、全国平均より8.0ポイント低い。

### ③ 授業で学級やグループの中で、自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合い、発表する学習活動に「取り組んでいる」、「どちらかといえば、取り組んでいる」

- ・小学校6年生 71.7%で、昨年度より6.2ポイント低く、全国平均より3.4ポイント低い。
- ・中学校3年生 71.7%で、昨年度より0.5ポイント低く、全国平均より0.4ポイント高い。

授業で学級やグループの中で、自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合い、発表する学習活動に取り組んでいる割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を下回っています。思考力・判断力・表現力を高めるために、課題の発見や解決に向けた主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりが求められています。各学校では、主体的・対話的で深い学びの視点に立ち、子どもたちが、主体的に考え、判断し、表現する活動を意図的に設定し、授業改善を積極的に推進する必要があります。

## 2 「学校質問紙」

### (1) 学習態度、礼儀正しさ

#### ① 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」

- ・小学校6年生 77.8%で、昨年度より11.1ポイント低く、全国平均より38.5ポイント高い。
- ・中学校3年生 100%で、昨年度と同様であり、全国平均より47.0ポイント高い。

#### ② 「礼儀正しいと思う」

- ・小学校6年生 77.8%で、昨年度と同様であり、全国平均より47.7ポイント高い。
- ・中学校3年生 62.5%で、昨年度と同様であり、全国平均より18.9ポイント高い。

「授業中の私語が少なく、落ち着いている」、「児童生徒は礼儀正しい」割合は、全国平均を大きく上回っています。各学校では、私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、授業開始のチャイムを守るなど、学習規律が丁寧に指導されており、江別市の小・中学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。

## (2) 長期休業中の学習サポート

### ① 前年度に、延べ「5日以上実施した」

- ・小学校6年生 77.8%で、昨年度より11.1ポイント高く、全国平均より50.3ポイント高い。
- ・中学校3年生 62.5%で、昨年度より12.5ポイント低く、全国平均より5.0ポイント高い。

江別市の小・中学校では、夏休みや冬休みの長期休業中に全ての学校が3日以上「学習サポート」を実施しており、5日以上実施している学校の割合は全国平均を大きく上回っています。学習サポートは、全教職員と市で配置している学習サポート教員(退職教員)で行われており、基礎学力の定着に大きな役割を果たしています。

## (3) 家庭学習の課題(宿題)

### ① 前年度までに、国語の指導として「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」

- ・小学校6年生 88.9%で、昨年度と同様であり、全国平均より1.6ポイント高い。
- ・中学校3年生 50.0%で、昨年度と同様であり、全国平均より3.1ポイント低い。

### ② 前年度までに、算数・数学の指導として「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」

- ・小学校6年生 88.9%で、昨年度と同様であり、全国平均より0.6ポイント高い。
- ・中学校3年生 75.0%で、昨年度と同様であり、全国平均より18.2ポイント高い。

国語や算数の宿題をよく与える割合は、小学校6年生は全国平均を上回っています。中学校3年生は国語については全国平均を下回っており、数学については、全国平均を上回っています。各学校では、学習内容を確実に定着させるために、学校が家庭での学習課題を計画的に与えるなど、家庭における学習の習慣化を図る取り組みが推進されています。

## (4) ICTを活用した授業

### ① 前年度、算数・数学の授業でパソコンや電子黒板、実物投影機等を活用した授業を週1回以上行った

- ・小学校6年生 72.2%で、昨年度より5.5ポイント高く、全国平均より43.2ポイント高い。
- ・中学校3年生 37.5%で、昨年度と同様であり、全国平均より19.5ポイント高い。

パソコンや電子黒板、実物投影機などを活用した授業の実施状況は、小・中学校ともに全国平均を大きく上回っています。江別市では、児童生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業が行われるよう、すべての学級に電子黒板を設置するなど、ICTを活用した授業を積極的に推進しています。

## 参考引用文献

平成29年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例 (国立教育政策研究所教育課程研究センター)

平成29年度全国学力・学習状況調査報告書 (文部科学省国立教育政策研究所)